

しろとり

自治会報

第72号

令和6年7月1日

発行 白鳥自治会

編集 総務委員会

印刷 白鳥印刷株式会社



白鳥自治会会長

田代 雅一

ごあいさつ

白鳥自治会長に就任して一年が経過しました。大変な重責を背負うこととなりましたが、役員の皆様、自治会員の皆様のご協力により、何とか無事に今日まで経過することが出来ました。ありがとうございます。

昨年度においては皆様の要望をいろいろ頂きましたが全てには応えることはできませんでした。頂いた要望については引き続き申請をさせていただき、新たな要望についても全ては無理としても、対応できるように申請してまいります。

昨年は、各地でゲリラ豪雨といわれる予測のできない雨が降り、白鳥においても短時間で川の水位が上昇したことにより、水路から水が溢れて床下浸水になって消防団員の方々による土嚢積み作業をしていたら、度々出動していただきました。消防団員の皆様には仕事の途中に何度も出勤していただきありがとうございました。

白鳥の町を歩いていると昔からの水路（農業用水）などがあります。事前に止水板の場所などを確認しておくなど、日頃からの準備をお願いいたします。

一月一日の令和六年能登半島地震では白鳥でも大きな揺れがあり、大変心配しました。地震はいつ何処で起こるかも予測できないものです。ゲリラ豪雨と同じように常に防災意識の向上が必要です。自治会も勉強会を開催して意識向上を図っていきませんが、皆様も、意識向上に努めていただき、お隣りやご近所に一人暮らしの方や高齢者の方、体の不自由な方をおみえになられたら、是非ともご近所同士での情報を共有していただくなど、地域一体となって防災に備えていただきますようお願いいたします。

白鳥の川岸を歩く

市議会議員 みずの まり



白鳥の皆さん、こんにちは！みずのまりです。

さる5月22日にインバウンド向けの白鳥おどり体験施設「世栄（よさかえ）」のお披露目会が開催されました。施設おける高規格道路の整備を見越すと、希望に満ちたものでした。尽力された白鳥振興プロジェクト委員会の皆様、また関係者の方々に心からの謝意をお伝えしたいと思います。

さて、私が多治見から郡上に移住して3年、白鳥には2年半が過ぎようとしています。あつという間でした。多くの人々に助けられたと思います。当初半年間は明宝にいましたが、特に白鳥に来てからは縁と人脈に恵まれました。

思い返すと人の人生の不思議さ、運命を感じずにはいられません。私はもともと自分の趣味である狩猟がたくて郡上に移住してきたものです。なので「郡上に住みたい」というよりはある「目的」のために「結果的に郡上に住むことになった」という感じで、その「住む」というのも、私の興味は山の中、森の中にあつたわけですから、「ま

ちの中に住む」という一般的な生活感からはかけ離れたものでした。

そんな私が「あれ？郡上も住んでみると意外といいもんだな……」と思い始めたのは、実は白鳥に移ったからなのです。

明宝に比べると白鳥は圧倒的に便利でした。国道沿いにスーパーやコンビニ等、郊外型の店舗が集まっています。商店街は寂れたとはいえ風情のある面影を残しており、犬の散歩に出るうちに自然と顔見知りが増えていきました。

なぜか飲食店が多く、どこに入っても美味しいのです。中には大都市にあつても遜色ないレベルにおしゃれなショップも存在しています。

「あれれ？なんだろう？この感じは……」
私は白鳥に来てから奇妙な既視感に度々襲われるようになりました。

住んでいる場所が白鳥町でも特に中心部の白鳥区だからというのもあるかもしれません。

が、実際、白鳥での生活は、都市部の周辺にある、所謂「地方都市」、所謂「郊外」みたいな場所における生活とさほど違いはないような気がします。

もちろん、これは自立し、自動車で自由に行動できるあくまでも「大人目線」の話ですが……。

これが地方では極端に行動が制限されてしまう子ども目線だとまた違って来るとは思います。「田舎」でもなければ「都会」でもない、どこでもなければどこにもある。便利でもあり、不便でもある。日本のいたるところにあるような、そんなマジナルな都市空間。それが私にとっての「白

鳥」でした。

そして「地方都市としての白鳥」は物静かで「何気ない日常」のイメージであり、「観光立市郡上」のイメージとは少し違うような気がします。

もちろんですが、先述したようにインバウンド需要の高まりや、高規格道路の広域ネットワークが実現すれば、白鳥のまちのあり方は今後また様変わりしていくことでしょう。そこには様々な人の思惑が交錯すると思います。ただ私は、日常の「なんでもない風景」に溶け込んでいる白鳥が好きです。スーパーの袋の中や、路地裏に立ち込める夕飯の匂い、ガレージの日陰の中、川岸から吹いてくる風と共にこのまちで生きて行きたいと思っています。

特別なものではない。そうした「なんでもなさ」「平凡さ」「凡庸さ」の中にこそ白鳥の「住みやすさ」があるんじゃないかとも感じています。

白鳥にずっと住んでおられる方々にとって、「白鳥」はどんな「まち」なのでしょう。そしてこれからどんな風に発展、振興していくと良いとお考えでしょうか。皆さんと共に考えて行きたいと思えます。

これからもお世話になります。

私はよく犬と堤防沿いを散歩しています。見かけたら気軽に声がけください。

では、また！

